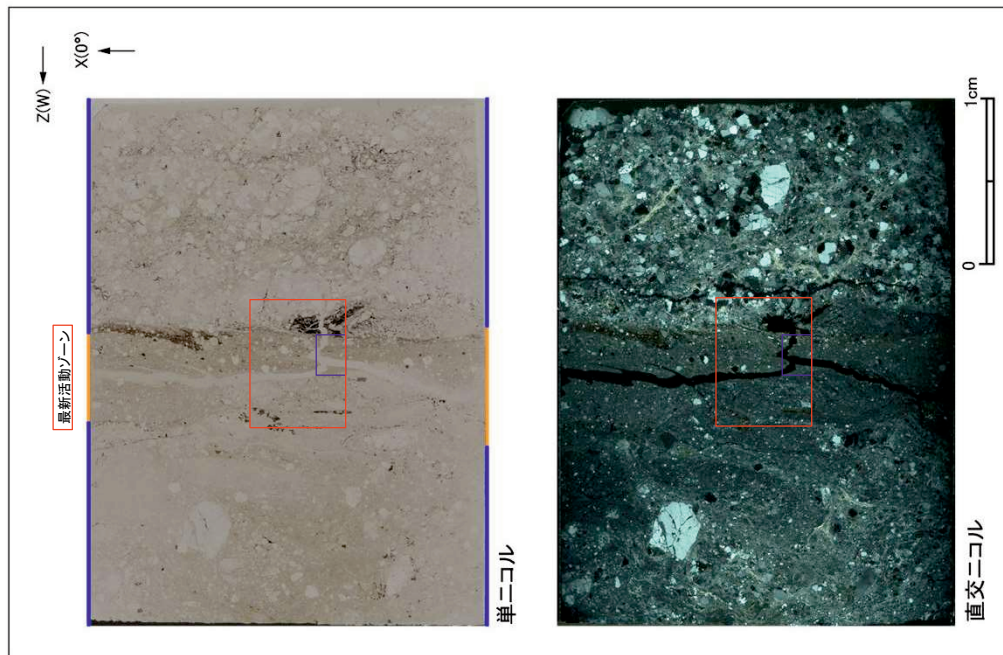
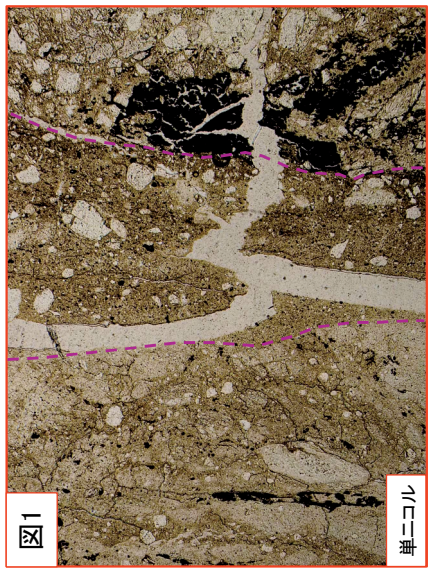


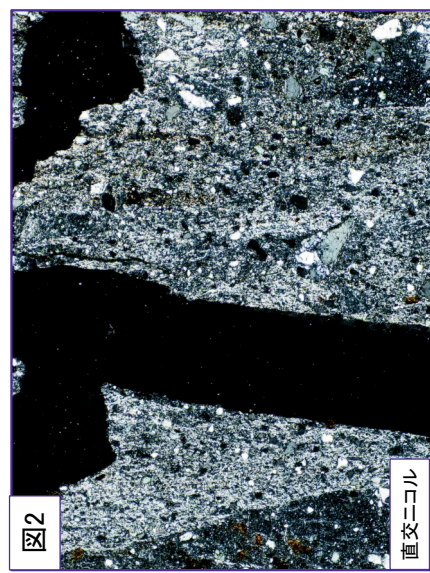
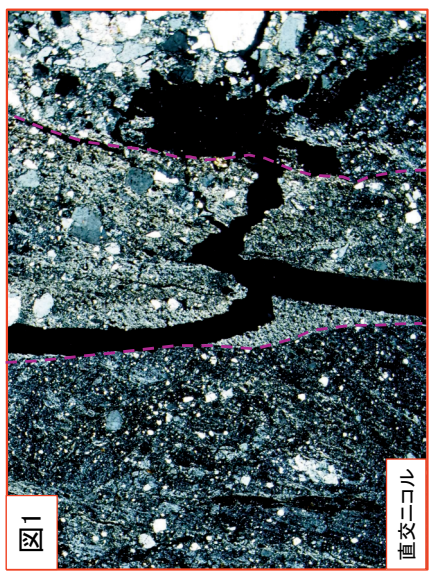
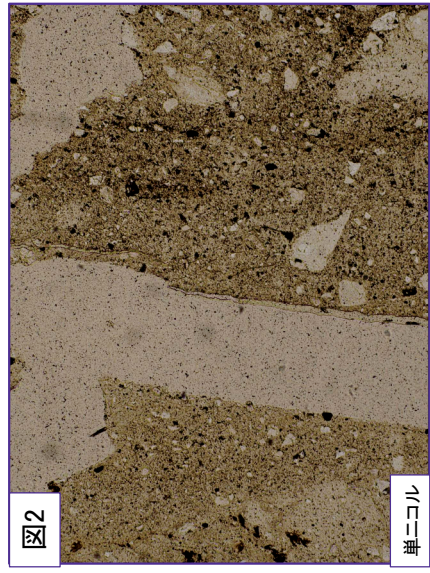
- ・最新活動ゾーンには、以下の特徴が認められる。
- 基質は粘土鉱物を主体とする。(図2)
- 粘土状部の分布は帯状で直線的である。(図1)



凡例  
 断層ガウジ  
 カタクレーサイト



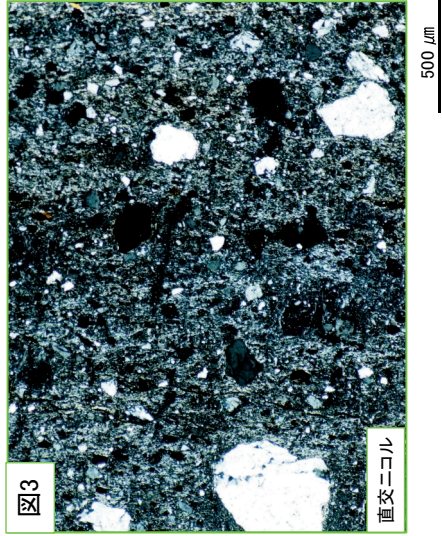
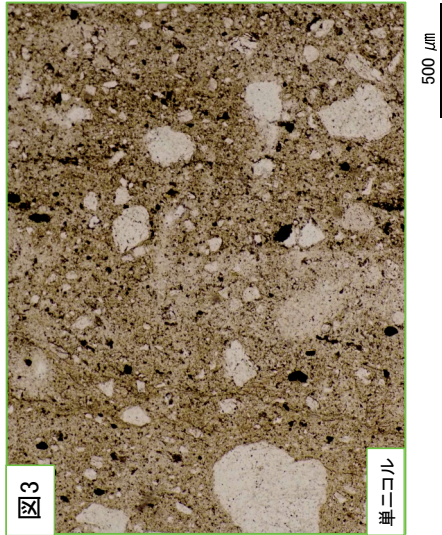
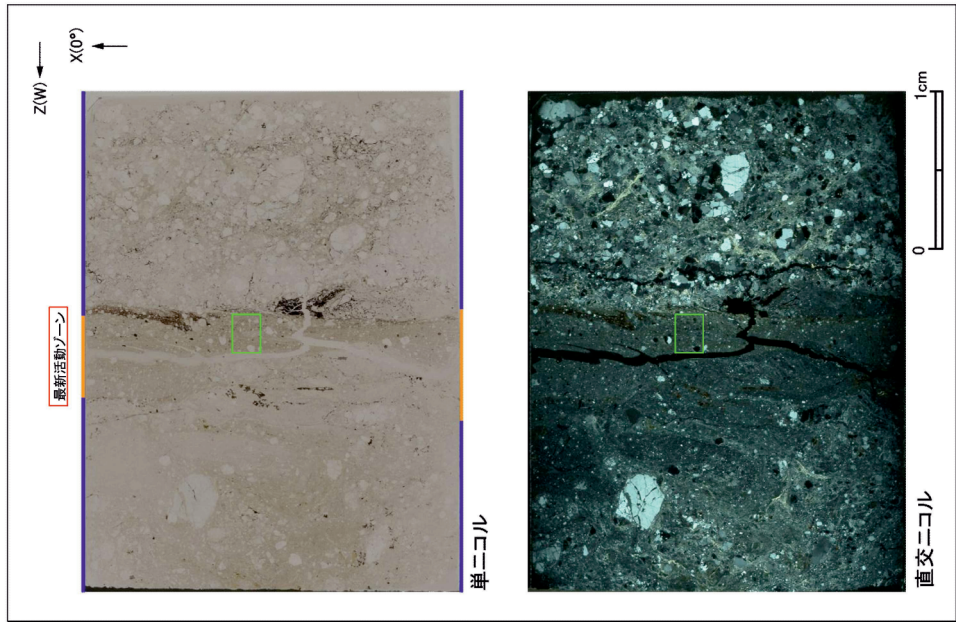
破線は帯状で直線的な粘土状部の範囲を示す



第7. 4. 4. 263図 (4)

破碎部性状 H27-B-1 深度44. 24~44. 53m (変位センス, 薄片観察による断層岩区分(2/3))

・最新活動ゾーンには、以下の特徴が認められる。  
 ➢ 岩片は少ない。(図3)  
 ➢ 丸みを帯びている岩片が多い。(図3)



凡例  
 断層ガウジ  
 カタクレーサイト

第7.4.4.263図 (5) 破碎部性状 H27-B-1 深度44.24~44.53m (変位センス, 薄片観察による断層岩区分(3/3))

(肉眼観察結果 深度44.31m)

- 肉眼観察では、粘土状部は軟質で、細粒部の連続性及び直線性が良く、原岩組織が認められる岩片を主体とし基質も細粒化した岩片からなる組織も認められない。これらのことから断層ガウジであると判断した。

(観察位置)

- 薄片試料は、肉眼観察により認定した断層面 $\alpha$ に沿って最も細粒化した部分を含み、人為的な試料の乱れの無い部分で作製した。

※断層面 $\alpha$ は最新活動面

(薄片観察結果)

- 薄片観察では、以下の通り断層ガウジの特徴が認められた。
  - 基質は粘土鉱物を主体とする。
  - 粘土状部の分布は帯状で直線的である。
  - 岩片は少ない。
  - 丸みを帯びている岩片が多い。
- 薄片観察では、カタクレーサイトの特徴が認められなかった。

以上より、薄片観察結果では、最新活動ゾーンの細粒部を断層ガウジであると判断した。



(総合評価)

当該破砕部については、以下の理由から断層ガウジであると評価した。

- 肉眼観察で確認された粘土状部は、その特徴から断層ガウジであると判断した。
- 薄片観察で確認された最新活動ゾーンの細粒部は、その特徴から断層ガウジであると判断した。

断層ガウジ・断層角礫の有無	断層ガウジ・断層角礫の幅[cm] *	明瞭なせん断構造・変形構造 *
有	0.2	無

\*: 断層岩区分の総合評価で断層ガウジ・断層角礫の有無が「有」の場合は肉眼観察結果を記載。断層岩区分の総合評価で断層ガウジ・断層角礫の有無が「無」の場合は「-」と記載して括弧内に肉眼観察結果を記載。

深度44.53～44.66m及び深度44.70～44.83mの「粘土混じり岩片状」と記載の箇所については、全体的にやや軟質であるが、含まれる細粒部は網目状に分布し、連続性及び直線性に乏しく、原岩組織が認められる岩片を主体とし基質も細粒化した岩片からなる組織も認められる。これらことから変質したカタクレーサイトであると判断した。

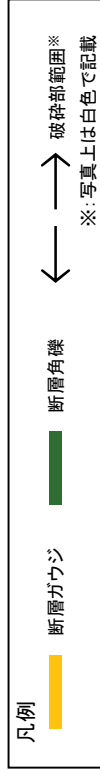
深度44.66～44.68mの「粘土状」と記載の箇所については、細粒部の直線性は一部で乏しいが、軟質で、細粒部は連続性が良く、原岩組織が認められる岩片を主体とし基質も細粒化した岩片からなる組織も認められる。これらことから断層ガウジとして扱うこととした。

深度44.68～44.70mの「礫質粘土状」と記載の箇所については、やや硬質であるが、上位の軟質粘土と平行に分布し、粘土の連続性及び直線性が良く、礫を多く含み、原岩組織が認められる岩片を主体とし基質も細粒化した岩片からなる組織も認められない。これらことから断層角礫であると判断した。

### ボーリング柱状図

- 44.53～44.83m：破砕部  
44.53～44.66m：粘土混じり岩片状部 (Hj)  
上端70°で波打って、下端65°で直線的に連続。径5～10mmの粘土化岩片と岩片間の軟質白色粘土（脈状主体）からなる。にぶい褐色～灰白色を呈する。幅55mm。
- 44.66～44.68m：粘土状部 (Hc-1)  
上端65°で直線的に連続。下端65°で一部波打って連続。軟質で、径1mmの石英粒ごく少量（5%以下）含む。上下端側に直線的なせん断面と同方向に幅1～2mm、長さ5～10mmの脈状のマンガニル染部を伴う。灰黄褐色を呈する。幅4～5mm。
- 44.68～44.70m：礫質粘土状部 (Hb)  
上端65°で一部波打って、下端50～70°で湾曲して連続。やや硬質で、上位の軟質粘土と平行に分布し、径2mmの石英粒、径3～5mm粘土化岩片を計20～30%含む。明赤灰色～灰白色を呈する。幅10～20mm。
- 44.70～44.83m：粘土混じり岩片状部 (Hj)  
上端50～70°、下端75～85°でいずれも湾曲して連続。下端は幅1mm以下の灰黄褐色軟質粘土脈。径5～10mm粘土化岩片と岩片間の脈状～網状白色～浅黄色軟質粘土脈からなる。岩片間の基質部には黒褐色のマンガニル染部が点在する。灰褐色～淡黄色を呈する。幅20～50mm。

### コア写真



細粒部が網目状に分布する



青枠部拡大

細粒部が網目状に分布する

・薄片は断層面  $\beta$  及び細粒化が進んだ範囲を含むように作製した。

※断層面  $\beta$  は最新活動面

コア写真



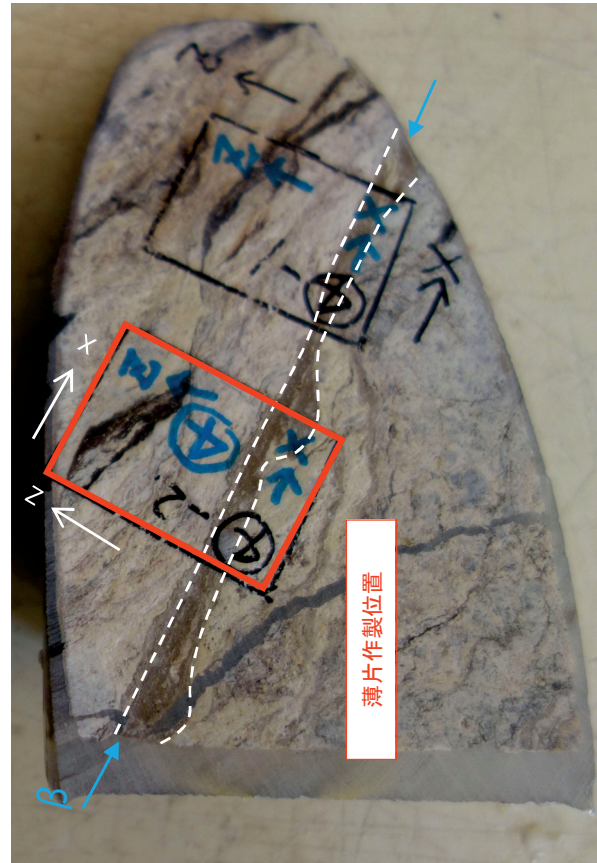
凡例

- 断層カウジ
- 断層角礫
- 破碎部範囲※
- 断層面

※: 写真上は白色で記載

薄片全景写真(単ニコル)

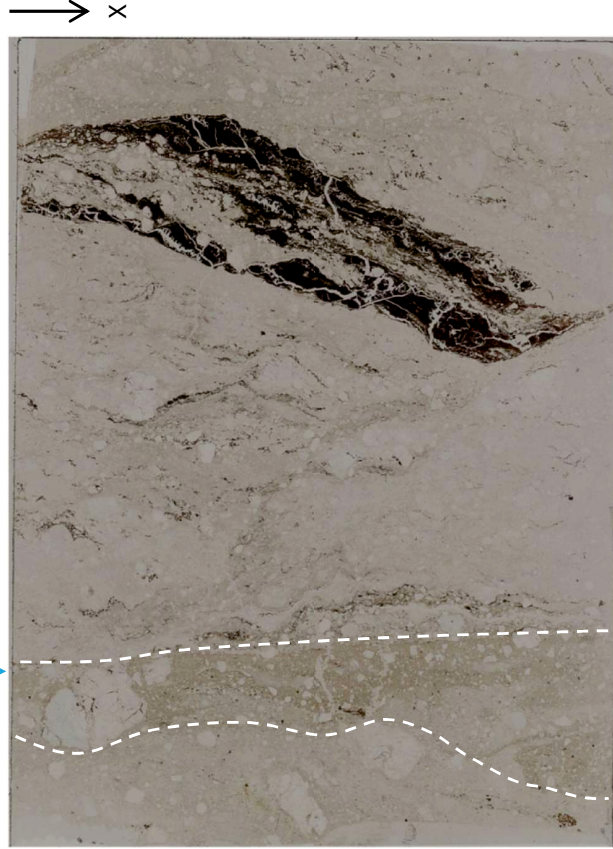
薄片作製位置写真



X: 条線方向(下向きを正とする)  
Z: 断層面の法線方向(上強側を正とする)

- 断層面
- 肉眼観察で相対的に細粒化が進んだ範囲※

※: 写真上は白色又は黒色で記載



X: 条線方向(下向きを正とする)  
Z: 断層面の法線方向(上強側を正とする)

